



# 光星コールド 板柳打線沈黙

▽2回戦（八戸市長根公園）  
板柳 700000  
八学光星 735000  
（五回コールド）150

（板）佐々木聖、飛森、佐々木聖、田中  
（八）下山、渡邊、山田、太山、小林  
▽本塁打 太山、近藤（八）  
▽三塁打 原（八）▽二塁打 佐藤佑（板）近藤 武岡（八）  
▽暴投 飛森（板）

【評】八学光星は初回、無失点に封じた。板柳は澤波の2点適時打や太山の3点本塁打などで一挙7点を奪つた。二、三回にも追加点を挙げ万全の試合運びを見せた。投手陣も下山、渡邊、山田の継投で相手打線を4安打終回に一挙6失点で途中降板した。体が開きちなフォームを修正して臨んだ夏の初戦。高橋は「丁寧なボールを低めに集められた」と三本木農打線に長打を許さなかった。

兜森監督は「堀田、小牟田が注目されがちだが、制球力はチーム」と評価する。次のライバル八学光星戦前に「いよいよ」と感じ。ワンチャンスをものしつていくと勝利を誓った。

の安打で1死二、三塁とた。一方で、五回に抑え好機を広げたが、後続を断たれなかった。

「闘争心足りない」

○…1回戦同様、圧倒的な打撃力で完勝した八学光星だが、仲井監督はナインの試合ぶりに不満げな様子。「勝ちほしたが、闘争心がまったく足りない」と険しい表情を浮かべた。

試合は初回に7得点し、早々と主導権を握った。



【板柳—八学光星】1回裏、光星2死二、三塁、9番太山が右翼席に3点本塁打を放ち、7-0とリードを広げる＝八戸市長根公園

死二、三塁でバントを招くなどしている隙を捉えた。仲井監督は試合後、「前に控え、主将武岡は次のまま（次戦の）青森山田とやったらコールド負けを見せたい」と決意を述べた。

春季大会の雪辱戦を目